



# Mitsui V-Net

## Mitsui Volunteer Network Center

### 三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.54

2015年7月1日発行

## 病院ボランティア活動と大阪府済生会 中津病院

大阪府済生会中津病院  
院長 川嶋 成乃亮

済生会は、明治天皇の恵まれない人々のために「施薬救療」事業を起こすようにという「済生勅語」を受けて、明治44年に創立され、現在は総裁、秋篠宮殿下のもとに全国40の都道府県に、79の病院と350以上の医療・介護・福祉施設を有しています。大阪府済生会中津病院は、済生会3番目の病院として大正5年に設立され、来年、平成28年にて、創立100周年を迎えます。この間、長きにわたり、『地域のすべての人々に質の高い医療を提供する』ことを使命として、地域の住民の方々の健康を守るべく努めてまいりました。中津病院はJR大阪駅から徒歩数分に位置し、748病床と全国済生会の中で最も多い病床数をもつ都市型大型総合病院です。多くの診療科を有していますが、特にがん診療と脳・心・血管病などの急性期治療に力を入れています。一方、老健や特養、児童福祉施設・乳児院、障害児入所施設・整肢学院などを併設し、医学的のみならず、生活的あるいは社会的にお困りの方々に、済生会ならではの一体となった医療・介護・福祉サービスを行っています。



中津病院では2004年2月からボランティア受け入れを始め、翌年の1月から三井V-Netのお世話になり、これまで20名ものボランティアの方々に来て頂いています。

病院側がボランティアの方々に期待する役割は、病院によって多少の違いはあるかと思いますが、職員では行き届かない細やかな患者サービスを行いよりよい療養環境を作っていただく役割と、地域社会と病院とを結びつける役割とが重要ではないかと考えています。

中津病院には三井V-Net以外のボランティアの方々も多く参加しており、全体として【こもれび】というボランティアの院内団体（グループ）に加わり活

動して頂いています。【こもれび】では『ゆっくりと優雅に活動する～利用者の歩く速度、話すテンポ、お気持ちに寄り添う～』ということを活動姿勢にしておられます。病院の職員は患者さんをはじめとした利用者の方々に対して、心では「丁寧にゆっくりと」と思っている、目先の業務に追われ、効率を追いかけ、ともすれば機械的な対応になりがちです。【こもれび】の方々は、さりげない気配りで、病院職員では手の届かないいろいろなことを、ゆっくりとそれでいてしっかりとフォローして下さっています。

毎年開催されている【こもれび】の懇親会や総会において、ボランティア活動を通じてのご感想を拝聴し、意見交換を行っています。時には厳しいご意見も頂戴しますが、病院職員の目線ではなく、患者さんや利用者さんの目線に立った、貴重なご意見であり、病院が更に進化していくために大いに参考にさせて頂いています。一方において、中津病院でのボランティア活動が、ボランティアの皆様にとっても生活の励み、メリハリになっているとのお言葉を伺うこともあり、病院としても嬉しく思っております。

医療を取り巻く環境は急速に変化しています。財政赤字の中、急速な高齢化社会を迎えた今日、医療費の高騰を抑えるべく、病院経営にとって厳しい様々な施策が打ち出されてきています。我々医療人が目指す医療とは、質の高い、それでいて患者さんにやさしい医療であると考えますが、まずは経済性ありきの今日の医療環境の中では、効率性が問われます。一見非効率と思われる中に『やさしさ』は存在するのであり、効率性重視の医療の中で、『患者さんにとってやさしい医療』をどのように創っていくかはこれからの大きなテーマです。また、厚労省の打ち出す医療費抑制のための病床数削減方針のもと、これからは病院の淘汰が進むものと想定されます。その中で、患者さんや利用者の方々に信頼され、愛される病院のみが生き抜いていけるものと考えます。そのためにも益々のボランティアの方々のご協力・ご支援を宜しくお願いいたします。





## 2014年度運営委員長を退任するにあたり

(株)三井住友銀行 経営企画部CSR室  
末廣 孝信

この度、2014年度に務めさせていただきました運営委員長を退任することとなりました。

私は、2013年度に副運営委員長を、そして2014年度に運営委員長を拝命しました。右も左も分からない中、要所要所で運営委員の皆さんに助けていただき、「自分が出来ることは何だろう？」と試行錯誤を繰り返しながら、何とか二年間務めさせていただくことが出来ました。



振り返りますと、在任中には、会員会社の拡大や年会費の課題、各社OB・OGの皆さんへの三井V-Netの認知度向上施策検討等、これからの三井V-Netの屋台骨を決定する重要な事項を取りまとめる大役を仰せつかりました。幸運にも山崎事務局長の的確なご指導と運営委員の皆様のご理解・ご協力に恵まれ、無事三井V-Netの方向性を取りまとめることが出来たのではないかと自負しております。

活動面においては、毎年三井住友フィナンシャルグループとして参加している秋の須磨海岸クリーンアップで、三井V-Net関西事務局の皆さまと隣り合って並び、清掃活動させていただいた後、一緒に記念撮影に入らせていただく等、一体感を感じる活動を行うことが出来ました。

また、大磯のエリザベス・サンダース・ホームで開催されましたチャリティーコンサートに初めて参加しましたが、素晴らしい演奏とともに天気にも恵まれ、忘れることの出来ない大変感動的なコンサートを体験させていただきました。

これらは、ほんの一例ではありますが、三井V-Netの全ての活動が、事務局をはじめとした、会員の皆さまの丁寧かつハンドメイドにより一つ一つ成り立っていることがよく理解でき、同時に皆さまのバイタリティに頭の下がる思いでした。

今後も個人的に是非活動に参加していきたいと考えています。

最後になりますが、理事長の團野様、山崎事務局長をはじめとする事務局の皆さま、副運営委員長の三井物産の黒様、前運営委員長の三井造船の能谷様、ならびに運営委員の皆さまのご指導、ご協力のおかげで一年間運営委員長を無事務め上げることが出来ましたことに改めてお礼申し上げます。

本年度以降も運営委員として関わって参りますので、微力ながら三井V-Netの発展にご協力させていた

だきたいと思います。一年間、どうもありがとうございました。

## 本部（東京）

### 「日本民家園」見学会を開催

本部事務局

2015年5月9日、大学部会横断イベントとして昨年に引き続き川崎市立「日本民家園」の見学会を開催しました。

参加者は会員7名、留学生16名、事務局4名の合計27名で、昨年と同じボランティアガイドの近藤さんと松下さんにそれぞれ日本語と英語のガイドをお願いし、日本語班と英語班の2班に分かれて見学しました。

「日本民家園」は生田緑地の一角の広大な敷地内に、東日本の代表的な民家をはじめ水車小屋、船頭小屋など20数軒の建物を配した古民家の野外博物館で、両ガイドの熱心なご説明に参加者の皆さんからも多くの質問が出されるなど、当初予定していた時間を超過して好評のうちに終了しました。

参加された会員と留学生からそれぞれ感想文をいただいていますので掲載いたします。

#### (1)日本民家園見学

牛嶋 毅（三井化学OB）

連休明けの5月9日(土)、川崎市の「日本民家園」を訪れた。当日小田急線向ヶ丘遊園駅に集合したのは結果的には東大国際センター部会が中心の、中国はじめ11カ国からの留学生16名、会員7名、事務局4名。午後から雨との予報もあったが、参加者の日頃の心がけよろしく曇天ながらも見渡す限りの新緑、時折の鶯の鳴き声にも歓迎されて2時間ほど、丘陵を上手く利用してゆったりと配置された日本各地から移築の江戸時代の古民家見学を楽しんだ。

我々日本人でも今や滅多に見ることのできない貴重な古民家群、はたして留学生たちの関心を惹くか、との危惧もあったが、さすが専門の勉強のみならず日本の文化、歴史をも出来るだけ体験しようという彼らの意欲が案内の日本語、英語のお二人のボランティアガイドの方にも伝わり、実に興味深い見学会となった。ゆっくり見て回れば優に一日を費やすという20棟のうち時間の関係で残念ながらとりわけ特色のあるものについてのみ詳しい説明を受けたが、日本各地方の多様な気候、風土に合わせて夫々に生活の工夫を凝らした古民家群、建物のみならずそこでの人々の昔の暮らしぶりをも彷彿させ、失われつつある日本の原風景を





感じることができた一日、機会を作り是非いま一度訪ねたい場所となった。

見学会終了後有志の12名の学生たちと昼食を共にしつつ、自己紹介を兼ねて、感想などを語り合ったが口々に大変良い企画への感謝が示され我々の疲れも癒された。

## (2)古民家見学会報告

東京大学 Kim Keug Tae

(原文)

### Book report for visiting traditional folk house

Briefly, what I felt through visiting traditional folk house was as follows. First of all, I can also feel that seeing and thinking is different. Namely, this term visiting was very good for me. Secondly, what made me surprise was the scale of house. When I heard and read the information about folk house, those houses were for usual person. I thought the scale was so big that all family can live in that house. Third, the fisher man's house attracted me. This is because that the house of fisher man was connected to the house of boat. This kinds of house was cannot be imagined in my home town since there are big sea level change due to the ebb and flow. Fourth, I want to say the planner who designed the location of folk house and thought this kind of item is great. Lastly, I'm always thanks for giving the chance of visiting historical sites

(訳文)

古民家見学会を通じて私が感じたことを、以下簡略に記述します。

まず第一に、見ると聞くととは大違いと感じました。この見学は私にとって非常によい機会となりました。



第二に、家の規模が私にとって大きな驚きでした。私が民家に関する情報を聞いたり読んだりした時は、それらの家が普通の人向きのものと思っていましたが、実際の規模はすべての家族がその家に住むことができるほど大きいと感じました。

第三に、漁師の家が私を引きつけました。家が舟の保管庫に接続していたからです。この種の家は潮の満ち引きによる海面の上昇下降が大きい私の故郷では想像できません。

第四に民家園の構想と場所を考えた方に対して賛辞を送りたいと思います。

最後に、歴史的施設を訪問する機会をいただくことに常に感謝しています。

## 横浜国大部会 初めての富士山バスツアー

藤田 芳規 (登録会員)

5月16日(土)に、交流している留学生と部会員を対象にした「バスで行く富士山展望ハイキングと忍野八海」を実施しました。部会としてはバスを使う行事は初めてのことでした。横浜国大の長谷川先生には留学生への案内、応募の受け付け、参加費の受け取りなど面倒な手間をお引き受けいただきました。有り難うございました。

申し込みは留学生20名と部会員7名。マイクロバスの定員28名がほぼ一杯になりました。

7時00分に弘明寺寮で全員(身内の不幸で当日急遽帰国することになった留学生1名を除く)が乗車。雨の中を全員が定刻に集合するという幸先よいスタートでした。

渋滞もなく9時10分には曇天の「忍野八海」着。散策中の俄か雨に大急ぎで駐車場のバスに駆け込んだことでした。

富士山信仰のシンボル「金鳥居」でバスを下り、往年の富士講の信者が歩いた富士道を「北口本宮富士浅間神社」に向かいました。途中、留学生に富士山にまつわる文化的・宗教的背景を理解してもらいたくて企画した「御師住宅(旧外川家住宅)」見学では“畳の間は初めて”という留学生の声が聞かれ、“上段の間の4枚の襖に書かれた漢文”は中国からの女子留学生が



パノラマ台より富士を望む



人と人のまんなかに。

見事に読んでくれました。

浅間神社では“本殿の建物だけでなくその佇まい”に興味を惹かれた留学生もいました。

雲が薄くなってきて待ちに待った富士山が姿を現わしました。ハイキングに備えて移動のバスの中で昼食。12時45分に精進湖畔からパノラマ台に向けて出発。なだらかな新緑の山道を1時間10分でパノラマ台到着。“雲の中に見え隠れする富士山”にみんな大喜びでした。やはり富士山は最大の見ものでした。眼下に「本栖湖」「精進湖」「西湖」「河口湖」も見えました。台湾からの女子留学生は富士山の他に“ハイキング中の涼風が素晴らしかった”と豊かな感受性を示してくれました。

帰りの道もスムーズで、18時15分に弘明寺に到着して解散しました。

## 嫁と畳は新しい程・・・

最上 徹（日本製鋼所OB）

いやいや、冗談、冗談ですよ。すっかり禿げあがって鼻の下を長くしているオヤジと一緒に妙齢なる女性は私の嫁でも畳でもありません。でも眼に入れても痛くない程可愛い娘みたいな外国人なのです。この度彼女は縁あって岐阜県の田舎の男性のもとに嫁いだのです。結婚式は仲人なしで私は彼女の「紹介者」という立場でした。



彼女の愛称は発音しやすくコンコン。台湾の最南部から駒澤大学の交換留学生として来日しました。2004年春のことでした。

来日当初はNHK朝ドラのエリーさんみたいなもので右も左も五里霧中。そこにすかさず三井V-N e tから救いの手を差し伸べたのが小生だったという訳です。



自分の禿げ頭を忘れて彼女には語学だけでなく日本に関わることは何でも楽しく真剣に教えました。その結果彼女はぞっこん惚れ込みました。いや私にではなくて日本という国に。

彼女は無事日本語能力検定試験1級合格をみやげに1年で帰国しました。

あれから何と10年の歳月が経過。若い学生と音信を保っていれば学業、就職、結婚などの大問題が次々に出てきます。親身になって相談しているうちに人情

が湧いてきます。そのうちに嫁という訳にはいかなくても畳ぐらいの新鮮でほのぼのとした温かみを覚えることができるようになります。隣国にそんな民間外交ルートを徐々に増やしていけるのが国際ボランティアの醍醐味でしょう。

## 寄り添い交流で得たモノ

萩原 捷（三井不動産OB）



「壺中の天」近頃、しみじみと心に想うのは三井V-N e t 国際交流・留学生支援活動をとおしてのことである。

2003年9月末、定年退職2日後に東京農工大学に学び直して「環境をキーワードとするまちづくり」をテーマに3年半。同時に、東京の山林保全や隣県の湿地・里山保全に関わり、更に大分県下郷地区の農村社会をフィールドに学び、併せて、身近な‘小平の農業’の援農活動を通じた地域の方々との協働に満11年。

学籍を離れた後も農工大の某研究室ゼミで共に研さんした米国・中国（4民族）・韓国・ヴァングラデシユ等からの留学生等との交流は続けられ、その体験を活かそうと一橋大部会設立前の2012年9月から大学の留学生交流支援活動に参画してきた。目下は昨年5月から二人目の四川省出身の男子留学生と交流をしている。

交流では日常の学究生活や就活等で抱える悩みや相談事を‘ユックリ’と聴くことに始まります。当初はなかなか打ち解けてくれませんでした。東京の‘下町見学会’や‘美しい日本語に慣れ親しもう’という目的で読んでもらった「伊豆の踊子」の読後感想を近場の昭島市温泉（湯楽の里）の疑似体験の場で語り合っている中に心開かれて‘東京の爺チャン’と称されるようになりました。交流は教えることではなく‘寄り添う’ことが大事なことと思慮しております。

勉強会では、聞き役の後に日刊紙のコラム「余録」から留学生の関心事である経済問題の視座・視点に関わる指摘や歴史的な生活・風習や自然・地理的環境等が創出する‘固有な日本語の比喩用語’などを切り抜きして教材としています。「経済」を‘経国済民’‘経世済民’‘経営済民’の何れの視点で捉えるかの議論は、勉強会後の‘焼きトン屋’にまで持ち越されました。

留学生らの想いの共通点は、母国の社会や制度あるいは経済状況に縛られること無く、己の生き様を大きく羽ばたかせたいという‘一念’ではないでしょうか。それは、昭和30年代の高度経済成長期に青年期を過





人と人のまんなかに。

ごした我々の想いと共通するがごとくです。

他方、現役時代とは全くの異世界・世代との交流をとおして得たモノは、今日のグローバル経済社会の単一規準への流れと留学生等の夫々の国・民族固有の制約との相克を超えた‘夢・想い’に、過去の経験や既定では推し量れない人のあり様を教えられたことです。

今後は一橋大部会の交流支援活動の向上にも多くの私体験を繋げて、更なる活動発展のために一助をなすように努めたい。

## 留学生との交流のこと

近藤 正俊（三井住友海上OB）



私は、会社を定年退職して、しばらく経過して、何かにチャレンジしたく模索している折に、前会社のOBサイトに三井V-Netの会員募集に

接し応募する。程なく、中国広州出身の留学生盧永健君（当時23才）の紹介を受ける。

彼は非常に純真無垢な性格で、かつ勉学に真摯に向かう人物であり、もはや昨今の日本人には見られないような好青年である。彼とは、週に一時間程の交流が始まり、日本での生活や、習慣や、食文化等の会話を通じて、日本語会話のスキルの向上を目指した。それから約3年が経過して彼は目下26才になり、現在東大柏の新領域創生科学研究科海洋環境学にて、修士生として早朝から夜遅くまで研究に没頭する日々を送っている。

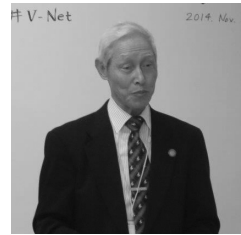
いささか彼の食生活と健康が心配であり妻と娘達の協力ももらい、四半期に一度の頻度で、わが家に招き四季折々の日本食を共にしている。彼の修士に合格の際は、わが家族全員で、お祝いの食事会をするなど家族ぐるみでの交流を進めている。このボランティアを通して、私は、若く純粋な好青年にいつも元気を貰っている。さらに、中国の地域による食文化の違い等、興味深い話も聞けて、わが方も楽しみにしている。

今私の心よりの願いは、このような中国の好青年とわが娘達のような若い世代の者が、日中の新しい関係を創生していくことである。日中友好に僅かながら貢献したいという思いと自負を持って、国際交流を楽しんでいる。妻とは、いつかは彼の生まれた国を訪問したく話している。

彼はこの夏、博士の道を選択して修士論文の仕上げに懸命である。博士になっても彼の行く末を見守ってやりたい。

## 「千葉大ワークショップ2014」感想文

井出 袈裟繁（東洋エンジニアリングOB）



私が所属する千葉大部会では毎年秋に留学生を対象として、企業紹介や仕事の経験談、就職活動のアドバイスなどを行うワークショップを開催しています。留学生からも好評をいただ

いており、参加する会員は毎回力を注いで準備を行い開催しています。

2014年も11月20、27日に千葉大と共同で留学生向けにワークショップを開催しました。留学生参加希望者は23名を数え、千葉大部会員も新人参加もあり嘗てない盛況ぶりです。二日間の延べ参加者数はボランティア会員19名、留学生34名になりました。参加留学生には東南アジアの留学生に混じって我々には馴染の薄いベラルーシという国からの人も含まれていました。

事前のアンケートによると参加された留学生の多くは近々、もしくは将来的に日本企業への就職を検討中で就活のやり方、スケジュール、そして、日本企業がどのように留学生を欲しているか、日本企業におけるマナーやビジネスの進め方、日本の企業文化とはいかなるものかといったことに質問が寄せられており、はっきりとした目的意識を抱いて我々のワークショップに参加してくれてました。これに応えるべく特別講座ならびにワークショップとしてつぎのようなプログラムで応じました。

- (1) 就職に焦点を当てた講座：就活の進め方、スケジュール、希望企業の探し方、留学生の日本企業への就職実態、等々
- (2) 日本企業の特徴に焦点を当てた講座：ビジネス実態、マナー、企業文化、等々
- (3) 千葉大部会員による企業体験談：我々OBの体験談で留学生に参考になると思われるものを提供
- (4) 数グループに分かれての討議・懇親：気楽に留学生の疑問点などを出してもらい先輩としてのOBが応える形で懇談

今年度の特別講座・ワークショップの特徴で気づいたことは、次のような点です。





- 1、参加留学生に多数の「短期留学生」が含まれていた
- 2、参加留学生は日本企業への就職などに関心を抱いており目的意識がはっきりしていた
- 3、千葉大部会員の参加者には新人も含まれ活況を呈した

二日間にわたる特別講座・ワークショップも皆さんの温かい協力により無事終了することが出来ました。ありがとうございました。

## ベトナム人留学生チンバトク君との 一対一交流について

田嶋 秋雄（三井住友建設OB）



日本での就職を希望している建築都市科学専攻のベトナム人留学生が一対一交流を望んでいるとのことでその相手として建

築学科出身ゼネコンOBの私に白羽の矢が立ち、チン君とはH25年8月に三井V-N e t 事務局の大橋さんと3人で初めてお会いしました。

千葉大学にて月2回交流することとし、最初は彼の質問に答える形で日本の建築業界、あるいは就職先を選ぶ可能性のある建築に関連する業界の話など私の経験・知識を踏まえた話をしました。その後彼がどんな仕事をしたいのか、どんな生き方をしたいのかを聞いたところ日本の専門的技術を学びたい。そのための就職で長期の就職を考えているが将来はベトナムにて働き、ベトナムの社会貢献に役立ちたいとのことでした。現在は奨学金とアルバイトをしながら学生生活を送っており実家は農業をしているそうです。日本人学生と対等な形で就職するのは難しい面があるかと内心思いましたが、彼のどうしても日本の会社に就職したいとの一生懸命な姿に何とか答えてあげたい気持ちで一杯になりました。

チン君が就職するにふさわしい会社は？から始まり、その会社にあったエントリーシートの添削、模擬の面接試験等、実際の就職試験が始まるまでの間彼の積極的な姿に答える形でアドバイスをしました。その結果、一流企業数社から内定を得たとの報告がありました。私は早い時期に本命の会社を絞りこみ、お断りする会社に迷惑がかからぬよう、また後輩達の就職活動に悪影響が無きようにしなさいとアドバイス、大成建設への入社が決まりました。本人が優秀であったこと、日本の就職環境が留学生にとって良い状況にあったこと

等が幸いしたのでないかと思っております。

内定が決まり一対一交流の本来の目的は達しましたが、本人の希望からその後も交流を続けたいとの話がありました。その結果、内定が決まった後はそれまで千葉大学構内で会っていましたが外で食事をしながら交流することにしました。私自身のボランティアに対する考え方、現役だったころの仕事に対する姿勢・考え方を話したり、チン君の彼女の話、結婚等の話を聞いたりと楽しく交流の時間を過ごさせて頂きました。

私が少しでも彼の役にたつとすれば大変嬉しいことでもあります。また彼が日本の会社に就職することにより両国の友好に少しでも貢献し、そして是非彼が望んでいる将来ベトナムに貢献したいという望みをかなえて頂きたいと願っております。

### <チンバトクさんの一対一交流の感想文>

(原文も日本語、作成は3月)

千葉大学大学院のチンバトクと申します。田嶋さんと一対一の国際交流は2013年8月13日から始まり、数多くの交流会を経てだんだん祖父の存在のように親しくなりました。

最初交流会は私の都合を考慮してわざわざ大学構内にお越し下さいました。私の興味深い日本文化や建設業について大学では感じられない建設業の面白さをご経験から親切に語って下さいました。私の率直な疑問にも丁寧に対応して下さいるうちに、いつの間にか二人の距離がだんだん縮んできました。私が大学祭のイベントに参加しメインになってベトナムの食文化を紹介した際には、ご貴重な時間を割いて応援しに来て下さいました。

そして、2013年10月から就活の準備を始めました。ベトナムの就活と全く異なるため、準備することが多いと考えましたが、何から始めるかさえわかりませんでした。その時、田嶋さんに尋ねてアドバイスを求めてみました。私と世代が違うため、田嶋さんも詳しくないだろうと思いました。ところが、次の面会では留学生向けの就職活動ガイドブックを買ってきて、熱心に相談に乗って下さいまして、大変感銘を受けました。また、エントリーシートを丁寧に添削して下さいましたおかげで、準備が順調に進むことができました。

更に、面接が苦手な私を知り、事前に模擬面接を対応して下さいました。その結果、切望していた第一希望の大成建設の内定をいただくことができました。就職試験が終わるころからは交流会も飲食店の場に行われるようになります。内定が決まった直後、早速和食のお店でお祝いして下さいました。就活を順調に進むことができたのは田嶋さんの的確なアドバイスや温かいお励みのおかげではあり、心から深く感謝してお





ります。

田嶋さんから習ったのは単に日本語、日本文化だけでなく、大切な奉仕の精神です。日本のどこでも様々な形態でボランティア活動をよく見かけます。よく考えれば、奉仕の精神と恩返しとの"サイクル"が成り立つことは今のような日本の住みやすい社会に繋がるのではないかと。

4月からは社会人になりますが、これまで支えて下さった方々を忘れることなく、早く一人前になって社会の"サイクル"に参画出来る人になれるよう頑張りたいと思っています。

## 駒澤大学部会 留学生との顔合わせ会に参加して I

横山 (登録会員)

2015年4月10日 駒澤大学国際センターにて留学生とボランティアとの顔合わせ会が行われました。出席者は留学生12名 ボランティア9名事務局1名の合計22名です。

最初に世話人の鈴木氏より三井V-N e t 駒澤部会によるボランティア活動の説明がありました。

私たちの活動目標や交流イベントに関する説明の後に、留学生たちが日本に関して興味のある事柄や陸前高田での体験を紹介してくれました。グループミーティングでは「温泉に行きたい」「着物を着てみたい」「茶道を体験したい」「歌舞伎を観たい」「京都に行きたい」という具体的な希望に加えて「大阪弁を覚えたいです」「大阪弁と京都弁は違いますか?」という面白い質問が出ました。これは日本のドラマやアニメに興味のある留学生からの質問ですが、インターネットを使って日本文化に接している様子がよく解りました。現代社会ではインターネットで手早く疑似体験することが流行しているようです。けれど人と人が交流することはとても大切です。仲間と共に体感したことはいつまでも心に残り、時を超えて懐かしく思い出されるのではないのでしょうか。留学生には「富士山バスツアー」や「歌舞伎鑑賞教室」で私達と共に日本文化を



懇談風景



分科会での懇談風景

体験して益々日本を好きになって戴きたいと思います。

私たちは彼らの希望や意見を積極的に取り入れて、「浴衣で遊ぶ会」を開催するための浴衣集めを始めました。今後も留学生と共に魅力的な体験ツアーやイベントを考えて、積極的に一対一交流とグループ交流を続けて行きたいと思います。

## 駒澤大学部会 留学生との顔合わせ会に参加して II

岩城 (登録会員)

今年も桜の花びらが散る中、駒澤大学の交換留学生との顔合わせ会に出席しました。昨年、緊張しながら初めて参加したことを思い出しました。

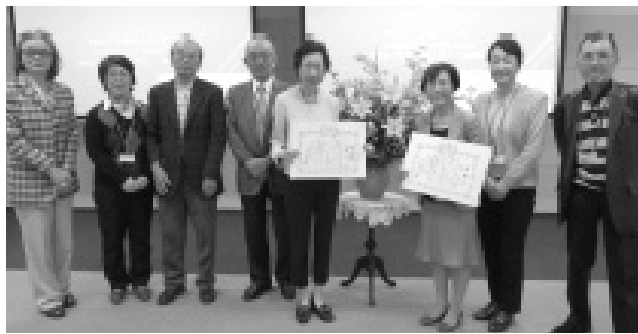
私は5年ほど前に、家族の介護支援などの事情のため20年間勤務した日本企業を退社しました。新しい生活のペースができて、再び社会と接点を持ちたいと思いはじめたころ、三井V-N e t のホームページを見つけました。現在に至るまで、駒大のボランティアの先輩にいろいろ教えていただきながら、外国人留学生と交流しています。

昨年は、ベテラン日本語教師の高橋さんのもとで華東師範大学(中国)からの女子留学生、蘇さんと一対一交流をしました。蘇さんは日本語検定一級を目指し、箱根、大阪、京都、北海道に旅行し、日本のアニメやファッションにも興味を持った活発な女子学生でした。好奇心旺盛で日本で見るもの聞くものすべてに、目を輝かせていました。私も遠い昔に忘れてしまったものを思い出し、それは一級合格以上の置きみやげとなりました。今年は、淡江大学(台湾)からの留学生、陳さんと一対一交流をします。日本語ビジネス検定受験を予定しているため、今年も駒大部会の先輩にアドバイスをいただきながら交流したいと思っています。陳さんもアニメやドラマが大好きな女子学生です。私も彼女と一緒に日本文化を探求して行きたいと思っています。



## 日本赤十字医療センターで会員が永年活動表彰

本部（東京）事務局



総会参加の三井V-Net会員の皆様：左から田中様、神崎様、飯野様、最上様、内藤様、前田様の奥様、上原様、田村様

平成27年3月24日(火)、日本赤十字社医療センターで平成26年度のボランティア総会が開催され、永年にわたりボランティア活動をされている方々に鈴木副院長より感謝状が贈呈され謝辞の挨拶がありました。

今回の授賞対象者は18名でした（活動15年以上1人、10年以上9人、5年以上7人、特別表彰1人）。

表彰式終了後、ボランティア会員と病院関係者の懇親会があり、皆様和気あいあいと歓談されていました。

三井V-Netの活動会員から2名が表彰を受けられました。

10年以上活動表彰：内藤久子様

特別表彰：故前田正道様（前田様は昨年12月に逝去されました。17年間の活動の功勞により特別表彰されたものです。）

内藤様は1階の総合案内付近で外来患者さんのお世話（再来機の操作・診療科の案内・車椅子の補助・会計機の操作など）をされています。

前田様も外来患者さんのお世話をされていたが、前田様の遺志を継ぎ奥様（前田永子様）が5月よりボランティア活動をされる予定です。

同医療センターで活動されている三井V-Net会員は14名の方々に外来受付・アロマケアのほか産科病棟でもボランティア活動をされています。

ボランティアの皆様は来院の方や患者さんはじめ病院関係者からも信頼されているとのこと。今後の一層のご活躍を期待します。

上記の医療センターでの永年表彰とは別に、本年度は日赤本社組織のもとで三井V-Netの最上徹様を始め以下の3名の方が銀色功勞賞を授与されました。銀色功勞賞は主に外国語を活用して連続15年以上活動したものに与えられる名誉ある表彰です。

最上 徹様（日本製鋼所OB、翻訳、障害者介助等）

宗吉郁夫様（三井化学OB、国際交流分野等）

井手彬夫様（日本製鋼所OB、国際交流分野、全体役員等）



右端が最上様

### <10年以上活動表彰者>

内藤 久子（登録会員）

十年前、三井V-Net会員の村上様から「ボランティアに興味ない？」と声をかけられたことがきっかけでした。外来ボランティアの仕事とはどのようなものか、一度村上様の活動される様子を見学しようと日赤を訪ねました。その日、外来受付にいらしたのが日赤でのV-Netボランティア活動を立ち上げられた飯野様と前田様でした。

お二人は「やあ、いらっしゃい」とニコニコ笑って迎えて下さいました。皆様が生き生きと楽しそうに活動される様子を拝見して、方向音痴、機械音痴の私が無謀にもその日の内にボランティア参加を決めてしまいました。

この十年、多くの他では得られなかった出会いと学びにあずかることができました。

職員の方、V-Netの皆様、そして患者さんから大きなお支えとお励ましをいただき十年間続けることができました。心より感謝申し上げます。

これからも無理せず、がんばりすぎず細く長く活動を続けていきたいと思えます。

### 2015春 鎌倉由比ガ浜の海岸清掃に参加して

東芝エレベータ(株)神奈川支社

佐々木 司

5月6日(水)、今年も鎌倉・由比ガ浜海岸の清掃活動が実施されました。

私たち東芝エレベータ神奈川支社にあっても、毎年の恒例となっている行事のひとつです。

三井V-Netとの連絡調整役である私には、「今







年もやるんですよ」  
との声が募集案内を流  
す前から多数寄せられ、  
当日は20余名での参  
加となりました。

今年の由比ガ浜は、  
工事のため厚板鉄板を  
敷いた車両の通路が区

画されておりビーチの幅が狭くなっていましたが、いつものように多くのサーファーと観光客で賑わうなかを、燃えるごみ用の白いポリ袋と燃えないごみ用の青いポリ袋を手に、思い思いに海岸の清掃を行いました。

清掃中には、「煙草の吸殻が少ないね」「花火の燃え殻がないね」などの会話がありビーチを訪れる人のマナーが少し良くなってきたのかなと感じました。しかしながら一方では、紫外線で劣化して細くなったビニール袋や、元は何だったのかさえ判らないプラスチックの破片は沢山ありビーチを利用する人だけではなく、餌と間違えて捕食し兼ねない水鳥たちへも思いをはせながらこれらを拾い集めました。

初めて参加した人、当日予定が空いたので駆けつけた人、この日を楽しみに待っていた人、会社では話をする機会のない人との交流を楽しんだ人、いろいろですが会社のカレンダーでは連続8日、長い人はそれ以上あった大型連休の最終日を、爽やかに晴れ渡った空の下、雄大な相模湾を望みながら皆それぞれに有意義なひと時を過ごせたことに感謝いたします。

終了後には小町通りで反省会と称し、ビールをとっても美味しくいただきましたことを最後に付け加えて結びます。ありがとうございました。

## 関西支部（大阪）

### “留学生交流”記

原 謙三（三井住友海上OB）



“光陰矢の如し”とは良く言ったもので、私が母校の神戸大学へのささやかな恩返しの積りで始めた留学生一対一交流も早

や10年を経過、今年で11年目に入ります。これまでに7名の学生と交流し、その半数以上の学生とは折にふれ音信が続いていることは喜ばしい限りであります。

さて、今回はついこの間まで（3月28日）1年たらずお付合いをして来た中国人女学生王さんについて

若干触れてみたいと思います。彼女は33才の既婚者で、江蘇省蘇州市（李香蘭の“蘇州夜曲”で有名）の出身で、高等学校の英語の教師をされております。教育関係の一族の中で生まれ育ったせいか、控え目で礼儀正しく、知性を感じるご婦人でした。

来日の動機は、中国においては小学校から英語の教育を施しているにも拘わらず、日中の高校生レベルでの英語学力の比較では日本の方が優れているので、日本の英語教育の有りようを研究することにあつたとのこと。

日本の中高生の受けている英語の授業を実際に見学するなど、精力的に調査研究をした勉強家。頭の下がる思いでした。

交流方法としては、これまでの学生に対していたのと同様、月1～2回観光地に出かけたり、食事を摂ったりしながら日本の文化・習慣などを話すといった具合でしたが、随分喜んで頂けたようです。

彼女は、来日するまでに持っていた日本感が随分変わったと言っておりました。日本の街並みの美しさ（ごみが落ちていない、バランスのとれた佇まい）、日本人の人柄の優しさ（おとなしく、礼儀正しく、親切）、治安の良さ（特に夜間）、生活水準の高さ等々に感銘したようでした。



また、日本料理には特に関心を持ったようで、食事といえば何時も日本料理を食し、食事の度ごとに、一皿一皿を写真に収めてから食べるといった具合。それに加え、食材一つ一つにつきあれこれ質問されて、

当方が戸惑わされる場面が多々あり、難儀させられたことも楽しい思い出となっております。

更にまた、日本の風土の美しさにも惚れ込んだようで、昨年の夏休みには、ご主人とお子さんを中国から呼び寄せ、北海道／九州／沖縄など日本列島を縦断する旅をされ、楽しい思い出を作られたようでした。

王さんは、滞日日数が短すぎたと残念がって離日されましたが、来日前と比べて随分日本最良になって帰国されましたので、本当に良かったと嬉しく思っております。

## 2015年春の神戸須磨海岸 クリーンアップ活動に参加して

平松 敏宏（三井製糖OB）

昨年、春の須磨海岸クリーンアップ活動（散乱するごみ収集）に、恩人であり先輩の紹介で初参加し今回で3回目となります。

4月19日(日曜日)、あいにく朝から雨、どうなるの



か心配しながら現地へ出向きましたが、幸いにも活動開始前には雨は上がりごみ拾いには何ら支障はありませんでした。

主催者側からごみ収集に関する注意事項の説明を受け、早速ごみ拾いに入りました。愛煙家でもある小生は、タバコの吸い殻を主体に拾い始め、紙屑・プラスチックの破片・金

属片・ペットボトル・食品包装容器等40～50分で回収袋が満杯になり、ごみ集積場に持っていき回収状況を見ましたが、昨年と比べてごみの量がやや少ないように感じられました。

今回の参加者人員数（主催者より420人と報告）にもよりますが、昨今の天候不順、少子高齢化の影響で、この須磨海岸を利用する人が減少したのかなと思われ

ます。神戸市が毎年公表している資料によると、毎年（7月1日～8月15日）の須磨海岸利用者は多い時で150万人を超えていましたが、昨年は68万5千人と発表されています。

古来白砂青松の美しい砂浜を持つ海岸として有名な須磨海岸は、「日本の渚百選」にも選ばれ、また海水浴場としての歴史も古く、1881年（明治18年）オランダの医師「W・ハイデン」によって医療目的の海水浴場として設置されたのが始まりとされています。

約1.8kmの砂浜が続く関西有数の海水浴場、この須磨海岸も昭和30年代後半から産業の高度成長に伴い海水の汚染が進み、あまつさえ砂浜の浸食、生活廃棄物等により砂浜の汚染が問題視されましたが、神戸市を始めとする官民一体の努力により徐々に美しさを取り戻していると思われ

ます。神戸市民を始め京阪神の人々の憩いの場として愛さ



れ親しまれ、また青少年の成長を育んできたこの須磨海岸海水浴場を、今後とも皆様の協力により美しく維持させていかなければならないと思います。

やがて後期高齢者の仲間入りをする小生ですが、健康と体力の続く限り、三井V-Netのボランティア活動に参加していきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

## 博物館で会いましょう

河崎 静子（登録会員）

一昨年秋、退職を控えて次の進路を模索していたところ、三井V-Netを通じて、神戸市立博物館の学習支援交流員の募集を知り、これだ！と思い立ちました。

とはいえ、学習支援交流員っていったい何？ どういうことをした

らいいの？ どんな年齢の人が対象なの？ …そんな疑問が次々浮かびました。でも博物館が大好きだからと何かやってみようと応募。そして平成26年2月から計6回の研修を受講し、4月より7期生として活動が始まりました。



神戸市立博物館は、神戸らしさ漂う旧居留地にあります。明治の初め外国人居留地として整備されたこの地域は、当時としては最先端で、電線は地下に埋設され、下水道も整い、今も明治大正昭和の重厚な建物等、当時の面影を色濃く残している魅力的な街です。と、こんなことも勉強会に参加して初めて知ることとなりました。

研修では先輩方の活動が紹介され、いずれのワークショップも興味深く濃い内容に、はたして自分にできるだろうかと不安になったものです。ですが勉強会を重ね、開会式や講演会の受付、案内等を経験、来館される小中学生の皆さんと交流し、対応の難しさを痛感しながらも楽しさも実感できるようになりました。

現在活動されている方々は仕事をリタイアされた方、今も現役の方、経験も興味も年齢も様々ですが、博物館を愛する気持ちは皆同じではないでしょうか。ボランティア初心者の私は先輩方の得意分野をこれからもどんどん教わり、充実した活動にしていきたいと考えています。

平成27年6月からは、特別展ボヘミアングラス、9月には大英博物館展が開催されます。ぜひ博物館でお会いしましょう。そして来年は一緒に活動しませんか。





## マイナビABCチャンピオンシップ ゴルフトーナメント・ボランティアに参加して

三島 俊夫（登録会員）



私がゴルフトーナメントのボランティアに参加したのは1994年の「第10回伊藤園レディスゴルフトーナメント」（千葉県：グレートアイランド倶楽部）でした。毎年2月に開催されたボランティア感謝コンペと懇親会に4回参加した記憶の中に、80歳を超える高齢の参加者が多く、コンペでは沢山の方が80を切らんかのスコアでラウンドしていました。この時、ゴルフは高齢になっても出来るスポーツだと強い印象を持ちました。その後、ボランティアとは疎遠になっていましたが、退職後は趣味の夏山登山・山岳でのイワナ釣りの鍛錬と思いゴルフを続けていました。メンバーコースに飽きが来ていた頃、「コニカミノルタ杯」が片山津カントリー倶楽部（石川県）で開催される時に以前の記憶に触発され20年振りに参加し、ラウンドも良いが日頃の趣味のための鍛錬、懇親コンペ、日常と異なる景観の満喫にはボランティアもあるなど参加を続けております。

今回の参加は、関西で著名なABCゴルフ場で懇親コンペをとの思いからマイナビABCのお世話をしている三井V-N e t 関西支部の会員になった次第です。そして事前準備のため「ABCゴルフ倶楽部」のホームページと地図でコースのレイアウトを把握し、初日は少し早目に倶楽部に向かい、会場と全体コースの把握でギャラリー対応に備え、誰もいないインコースを回遊し「倶楽部の静寂・景観」を楽しみました。業務はスコアラーで4日間とも抽選でした。1st Round、In19組（上平、高山、谷口）、なおキャリングの人数不足で同業務も担当し一人二役を暑中こなしました。谷口選手は復帰戦だったのか飛距離が出ていませんでした。2nd Round、In28組（川村、小平、池田）、人気選手でギャラリーも多くて楽しいラウンドでした。見せ場は7番の川村・小平選手のワンオン狙いでしたが乗らずにパー。小平選手のバンカーか

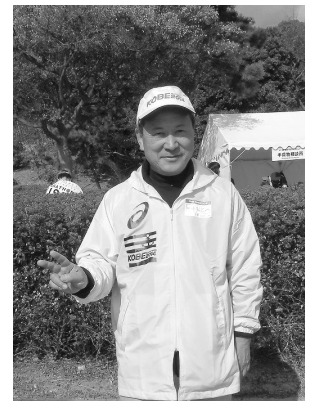


らのホームランはプロでも…？、池田選手は手堅く刻んでパー。3rd Round、In13組（星野、K Tゴン、Aブランド）、スタートから雨で、12番グリーン上の水浮で30分の中断、一日中足場の悪いラウンドでした。見せ場はやはり7番の3選手のワンオン狙い、失敗しましたが小柄で飛距離の出るK Tゴン選手がグリーン左上の350ヤード位のカート道のコンクリート上から救済を受けず、直接打ったショットには驚きました。Final Round、In9組（Dオー、李尚憲、HWリユー）、3人の外国人でギャラリーはいませんでした。最終日は選手のスコアUPを願うためか、素晴らしいプレー等には自然と声が出、入力を失念することもありましたが楽しく元気にラウンドできました。このコースはINが難しく3選手はスコアを伸ばすことができませんでしたが、随行組の池田選手が4位で予選落ちが一人（川村）だったので楽しい満足感と懇親コンペ参加の憧れを持って帰路につきました。

## 神戸マラソン団体ボランティアに参加して

小松 仁一（三井不動産リフォーム現役）

手荷物返却27号車のサインの下に集合した三井V-N e t の8名、そして神戸てくてく会の4名計12名が本日の仲間です。手荷物番号52,000番台のクォーターマラソン参加者への手荷物手渡しが我々のお役目です。仲間内では、下3桁でその番号を呼び合うようにしました。



須磨海づり公園の真上にある太陽がまぶしい朝でした。「9時10分トラック到着、10時15分ごろ最初のランナー到着、11時02分ごろ最終ランナー到着」と聞いてはいたが、時間の進むのは遅く、何度携帯電話の時刻を見たことか。先頭ランナー到着のアナウンスに私の心は「さあ、本日のボランティア、ボランティア」と反響した。

余裕をもってゴールするランナーの方、友人が待つゴールに駆け込むランナーの方、最後の力を振り絞ってゴールするランナーの方、それぞれが手荷物を受け取りにこちらに歩いてくる。「ゼッケンがタオルに隠れて見えない？」、遠目でゼッケンを確認して互いにボランティアメンバーに声を掛け合う。

手荷物がボランティアの手からランナーの手に渡される。「お疲れ様でした」「ありがとう」の挨拶が最後まで心に残って、さわやかな一日でした。

## 中国支部（広島）

### 私のボランティア体験

小西 宏伸（東芝OB）



仕事の関係上色々な国を訪問した経験があることから、自分自身が無理なく興味を持ち長続きできそうなボランティア活動として国際交流を選び活動したことがあります。自分が海外に行ったときにどのような思いをしたか、その時にしてもらいたかったことは何だったか考え、それを日本で生活する外国の人に反映しエンジョイしてもらいたい、外国の人とフェイストフェイスで話をしてみたい、そんな思いから日本語学習を手助けするボランティアに参加しました。

まずは、多種多様な経験をされているボランティア仲間にも恵まれたこともあり、学習者の皆さんは何を要望されているのか潜在的な面を含め、確認し合いながら活動を進めることができました。毎週土曜日の朝2時間の学習支援ボランティアを5年間続けました。

学ぶ人たちは、企業の研修生として2年から3年の期限付きで来日した人、日本の男性と結婚して日本で生活を始めた人など、国籍は中国、韓国、インドネシア、フィリピン、バングラデシュなど多くの国にわたっていました。

私たちにとって日常当たり前の、病気になれば近所の病院へいけばお医者さんに診てもらえるということが、海外から来た人にはそうではありません。状態によっては、どこの病院へ、医者にはどのように伝えればいいのか、また日本は災害の多い国でもあり、防災に対する準備やいざという時はどうすればいいのか、こんな大きな不安に対して具体的な行動等を教材に盛り込みました。学習者の意欲と成長はたくましいもので、ほんの数か月の後には日常会話ができるまでになり、その会話の中で私も海外の各国でのいろいろな言葉や習慣なども知ることができました。学習者からも大変喜ばれましたが、私自身も大きな満足感を感じたことを覚えています。また機会があれば今までの経験を生かし、国際交流の分野で活動ができればと思っています。

### 山登りと清掃奉仕

江崎 憲吾（登録会員）

高齢化社会が進む今、これまで以上に健康志向の人が増えているような気がする。ウォーキングやジョギ



ングを習慣にしたり、街歩きや登山を趣味として楽しんだりしている中高年も多く見かける。

私は、10年程前から健康維持のため、自宅近くの極楽寺山に登っている。登山道は中国自然歩道として整備され登りやすく、山上までブナやカシ等に覆われた樹林帯の中を、森林浴を楽しみながら、ゆっくり1時間かけて登る。

山登りは、有酸素運動ができ、筋肉トレーニングにもなり、綺麗な空気が吸えて、ストレスのない長時間運動が出来るのがいい。

道中は、いろんな出会いがある「高山植物との出会い」「珍しい野鳥との出会い」当然「人との出会い」もある。まずは挨拶から始まり、初めて会う人には「どこから来られましたか」等の会話も弾む、そんな出会いがあるから、魅力でもある。お陰さまで、山登りが縁で多くの山友達にも恵まれてきた。山はいろんな意味でのコミュニケーションを図れる場でもある。

山上の、真言宗古刹極楽寺（標高631m）は天平3年（731年）僧、行基上人が開山し、聖武天皇が建立したとされ、数々の文化財がある由緒ある古寺で、毎日多くの参拝者が訪れている。

また、山頂部の展望台からの眺めは素晴らしい。瀬戸の多島美が一望でき、天気の良い日には、石鎚山他、四国の山を望むことができる。

私は数年前から、当寺参拝時には、僅かな時間ではあるが、境内の清掃をすることになっている。清掃している時間は余計なことを考えずにいられるのがいい。清掃を終えると、清々しい気持ちになるが、何よりも、参拝に来られた方々に、いつでも綺麗な境内を気持ちよく歩いてもらえればと思っている。

これからも、山の恩恵に感謝して、清掃奉仕を続けたいと思っている。



後列左から2番目が筆者





人と人のまんなかに。

## 2015ひろしまフラワーフェスティバル(FF)でのボランティア参加について

中国支部 事務局



毎年5月3日から5日に開催されるFFは、今年で39回となり初日のメインイベントである広島平和大通りでのパレードは11年ぶりの雨になったが、それでも参加者は終始笑顔で元気にムードを盛り上げていました。特に今年は被爆70年でもあり「花と平和の祭典」として平和記念公園を舞台に音楽祭、平和大通りを特設会場にしたストリート陸上、色々なステージでの歌とダンス、最終日にはYOSAKOIパレードが実施され3日間で例年並みの160万人近くの人出でにぎわいました。

その中で身体障害者の共同作業所の団体が企画し実行している「ふれあい広場」でのボランティアに今年も参加しました。今回このボランティアには初めて鈴峯女子短大生の泉さん、中川さん、呼坂さんが参加し、



わた菓子コーナーで実際にわた菓子を作る作業をしたり、売り子役で頑張りました。当日は生憎の雨でお客

さんも例年とは違い少な目でしたが、それでもわた菓子を自分で作るコーナーでは子供の列が出来、わた菓子機から出てくるわた菓子がうまく割り箸に巻きつかず悪戦苦闘していました。

他にもお好み焼きコーナーでのお手伝いや広島市社協が実施している車いす介助支援等延10名のボランティア参加者がありました。

### 「&EARTH 衣料支援プロジェクト」について

杉野 茂樹 (三井不動産 中国支店 現役)

三井不動産グループでは「&EARTH 衣料支援プロジェクト～あなたの服で世界に笑顔を～」と題して全国の商業施設でボランティア活動を行っています。このプロジェクトは、不用となった衣料品のリユースを促進し、商業施設のお客さまとともに国際的な社会貢献活動へ参加することを目的として、NPO法人「日本救援衣料センター」の活動に賛同・協力する形で行っているものです。寄贈いただいた衣料品は、同センターを通じて世界各国の難民や被災者の方へ送り届けられます。併せて、海外寄贈先までの輸送費の募金も受け付けて

います。2008年12月より春と秋の年2回実施し、昨年までの累計実績は、参加者43,583名、寄贈衣料約233トンになります。



三井不動産中国支店では、中国地方で展開している三井不動産グループ各社と共同して、広島市西区にある三井ショッピングパーク・アルパークでこの活動を行っています。昨年11月8日には三井不動産グループ各社の社員がボランティアで、お客様がお持ちになった衣料品の受付、仕分け、箱詰めなどの作業を行いました。その結果、参加者481名、衣料品2,584kg、募金23,920円を集めることができました。これは全国の商業施設で第2位の実績であり、広島でこの活動がしっかり根付いていることを示しています。ご協力いただいたお客さまに深く感謝いたします。

今年も5月23日に三井ショッピングパーク・アルパークで開催いたしました。秋にも再度開催する予定です。三井V-Net中国支部の会員皆様にも不用となった衣料品のご提供、募金へのご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

### 事務局便り

#### <入団事務局員挨拶>

本部 (東京) 牧野 峰男 (三井住友海上OB)



6月末に退団された大橋さんの後任として、5月1日付で入団いたしました。

今まで自分ではボランティア活動を経験したことがなく、またそのお世話をしたこともありませんが、これを機会に少しでも早く仕事を習得し関係の皆様のお役に立てるよう、一生懸命努力して参ります。よろしくお願い申し上げます。

中国支部 岩田 智恵利 (三井生命OG)



中国支部事務局で長年勤められている竹野下さんの後任として本年6月から勤務させていただくことになりました。

昨年まで三井生命広島支社に勤務しておりましたが、ボランティア活動に係わった経験がありません。



不慣れで何かとご迷惑をお掛けするかもしれませんが、ボランティア会員の皆様の少しでもお役に立てる様、頑張りたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

### <退団事務局員挨拶>

本部（東京） 大橋 誠治（三井住友海上OB）



2012年6月に入団し、去る6月末で退団をいたしました。三井V-Net本部事務局に勤務した三年間、みなさまには大変お世話になり心から感謝申し上げます。

現役の時は三井V-Netのことを知らなかったのですが縁あって入団して、ボランティアの世界を知り、目からうろこという感じでした。会員のみなさんが元気にボランティア活動を行っている姿を見て、お話を聞いて、驚きと感激ばかりでした。

会員さんのサポートを自分なりに努めて参りましたが、不十分な点もたくさんあったと思います。在職中に担当させていただいた一木会、幹事会、千葉大部会、東大柏部会の方々にはお世話になりっ放しで恐縮です。また貴重な経験を積むことができました。

退団後は96才の母親を妻とともに大事にしつつ、あらたなチャレンジもしてみたいと思います。落ち着いたらボランティア活動にもトライしてみたいと思いますので、その際はよろしく願いいたします。

中国支部 竹野下 邦子（三井住友銀行OG）



このたび、6月末をもって中国支部事務局を退団いたしました。

入団してからの5年間を、楽しく活動できましたのも皆様のお陰だと心より感謝しております。ボランティアについても多くのことを、経験して学ぶ事ができました。これからもボランティアに参加し、人との交流を大切に少しでも社会のお役に立ちたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

皆様のご活躍と事業団のますますのご発展をお祈り申し上げます。

### 2014年度 「三井V-Net」名義によるダルニー奨学金への支援報告

三井V-Netでは「書き損じはがき」「未使用はがきと切手」および「使用済み純正インクカートリッ

ジ」など資金の源となる物品の収集活動や、様々な場面で募金活動を展開しております。

毎年末には一年を通してみなさまのご協力により集まった各種物品を、国に頼らず民が主体となって社会の発展と平和への貢献をめざす公益財団法人『民際センター』へ送り、そこでの換金作業を経て経済的に恵まれないタイ国農村部の子どもたちの中学就学のための「ダルニー奨学金」として三井V-Netの名義にて提供しております。

2013年に当事業団の本部（東京）および関西（大阪）・中国（広島）の各支部にお寄せいただいた物品の換金額と募金の合計額は52,264円にもなり、2014年度は4人の子供たちの中学校生活を支援することができました。

ご登録いただいているボランティア会員様はじめ、会員会社の現役社員の皆さまや当事業団のホームページをご覧いただきご協力いただいた一般の皆さまにもあらためて深く感謝申し上げます。

なお、東南アジアにおいては経済成長とともに物価の上昇も著しく、その影響によりひとりあたりに必要とされる一年分の奨学金が2014年度より従来の10,000円から14,400円に増額いたしております。

なお一層のご理解のもと、心温まるご支援のほどお願い申し上げます。



ご協力により1年生となったタイの女子中学生  
(卒業までの3年分の学費を確保できております)



## 予告

### 第9回エリザベス・サンダース・ホーム「チャリティコンサート」開催のご案内



三井V-Net 湘南倶楽部では、JR大磯駅前にあります聖ステパノ学園「海に見えるホール」にて、チャリティコンサートを下記のとおり開催いたします。

後日ご案内いたしますが皆様お誘いあわせのうえ、お越しくださるようお願い申し上げます。

なお、チャリティコンサートの収益金は、同ホームに寄付いたします。

~~~~~ 記 ~~~~~

1. 日 時 2015年11月8日(日) 14時開演予定
2. 会 場 聖ステパノ学園「海に見えるホール」
3. 演奏者 小林 洋平氏(サクソ奏者)、  
ピアノ、弦楽器奏者7~8名

## 物品ご提供による支援のお願い

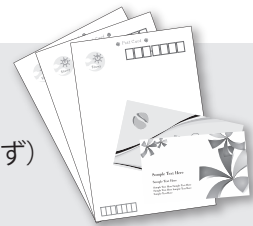
三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

集まった品々は年末に一年分を取りまとめ提携先団体を経由して換金のうえ、東南アジア僻地の子供たちの中学就学やインドでの女性の生活向上と農業プロジェクトおよびインドネシアにおける給水・農業の技術指導など各事業の支援に役立てています。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもお声をかけていただければたいへん幸甚でございます。ご協力を心よりお待ちしております。

### ご提供いただきたい物品

- 未使用はがき・書き損じはがき
- 切手(国内外、使用・未使用問わず)
- プリペイドカード(使用・未使用問わず)
- 使用済み(純正)インクカートリッジ



### ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部  
もしくは各支部あて

- 本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F  
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035
- 関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4F  
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681
- 中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5F  
TEL/FAX: 082-222-5101

